

平成三十一年度 一般入学試験（前期）小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は表紙を含めないで3ページあります。解答用紙は3枚です。下書き用紙は1枚あります。
試験中に、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 試験開始の合図があつたら、まず、すべての解答用紙の所定欄に受験番号を記入してください。
- 4 解答はすべて解答用紙のそれぞれの解答欄に記入してください。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 解答用紙は記入の有無にかかわらず、持ち帰ってはけません。
- 7 この問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

「自分は何も知らない」と思うこと

こうしていろいろなことを知るたびに、私が一番思うのは「ああ、自分はなんてものを知らないんだろう」ということです。「無知の知」という言葉があります。(①)。

これが、実はとても大切なことなのではないかと思うんです。

勉強していなければ自分がものを知らないことに気づかない。だから勉強する気になれない。けれど、ちよつとでも勉強してみると、学問というのはほんとうに奥が深いことがわかる。「じゃあ、もっと知ろう」という意欲が出てくるわけですね。

私も中学生や高校生の頃は「なんで勉強をしなければならんだろう」と悩んだことがあります。ところが、気象庁を担当していて地震について取材すると、マグニチュードが七から八に上がるとエネルギーが三二倍になるといいます。目盛りが一つ上がるだけでなぜ三二倍になるのでしょうか？ これは対数なんだよね。「そうか、対数はこういうときに使うのか。なぜ数学の先生はこのことを教えてくれなかったのかな」と思ったりするんです。

中学生で因数分解を習いますね。これもなぜやるのかよくわからなかった。ところがあるとき、「物事を整理してわかりやすく伝えるのは、因数分解そのものなんだな」と気がついたんですね。因数分解は数列や数式のなかで共通したものを見つけて一度外に出し、それ以外のものを括弧で括ることです。これはある複雑な物事や事象を人々にわかりやすく説明するときと同じです。いろいろな要素のなかから共通したものを見つけて、それを最初に出して説明しようとする。まるで同じなのです。

つまり、因数分解を習ったことによつて、自然と頭のなかで物事を整理して、わかりやすく説明する力が備わったのだと思つたのです。ビートたけしさんも「何かを表現するとき、必要なのは因数分解の力だ」と言っていました。彼もそこに行きついたんですね。

生涯学び続ける力をつけよう

今、毎日勉強するなかで「いったいどんな意味があるのだろうか」と疑問に思っているかもしれません。しかし、それはやがて自分の成長に大きくつながるのです。

先日、アメリカのマサチューセツ工科大学(MIT)を視察しました。さぞ最先端の技術や知識を教えているのだろうと思つていましたが、意外なことに音楽教室にはピアノがブラツと並んでいて、一般教養も熱心に教えていました。私はびっくりして「どうしてですか？」と尋ねました。

すると、最先端の技術や知識も教えているけれど、今の世の中のスピードでは四年も経つとそれらは古くなってしまふ。だからその時点の技術や知識ではなく、大学を卒業したあとに自ら新しい知識を吸収したり、自分で最先端の技術をつくり出そうとしたりする能力こそ身につけさせるべきだと考えているというのです。「すぐ役に立つことは、すぐに役に立たなくなる」。そう考えているのです。

慶應義塾大学の塾長だった小泉信三も同じことを言っています。すぐに役に立たないようなことが後になってじわじわと役に立つということですね。世の中のさまざまな人たちの経験に裏付けられて中学校や高校のカリキュラムはつくられています。そのときはわからなくても、後になると役に立つことはいくらでもあるんですね。

とはいえ、中学・高校や大学で学べることはやはり限られます。すべてを学ぶことはできません。とすれば、身につけるべきは、社会に出ても生涯にわたって学び続けることができる力だろうと私は思うんですね。

(中略)

皆さんは、勉強しようと思えばできる環境にあります。しかし、世界には勉強したくてもできない子どもが大勢います。あるいは「勉強がしたい」と言ったがために武装勢力に狙われ、銃撃されて死にそうになった^②パキスタンのマララ・ユサフザイさんという少女もいます。ちやうど君たちと同じくらいの年齢ですよ。

勉強しようとする^①と殺されてしまうような社会もあるなかで、君たちは勉強しようと思えばいくらでもできる。こんなに幸せなことはないんですね。学ぶことの楽しさを見つけてもらえればいいな、と思っています。

(池上彰「学び続ける原動力」、『学ぶということ』(続・中学生からの大学講義) 1』

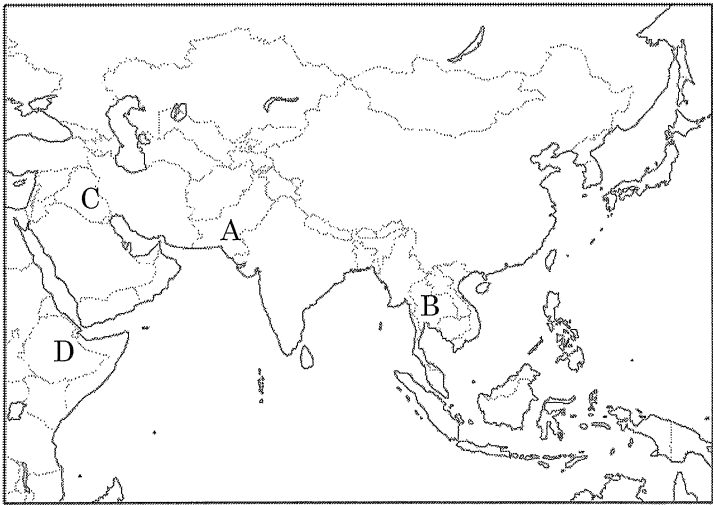
桐光学園十ちくまプリーマ新書編集部編)

*ただし、本文の一部を省略しています。

問一 次の各質問に答えなさい。

(一) () ① () の中には、傍線部「無知の知」を説明する記述が入ります。二十五字以内で答えなさい。

(二) 傍線部②の国は、左の地図のA～Dのうちどれですか。記号で答えなさい。



(三) 点線部「世界には勉強したくてもできない子どもが大勢います」について、このような状況を引き起こしていると考えられる具体例を一つあげ、五〇字以内で説明しなさい。

問二 二重傍線部「物事を整理してわかりやすく伝えるのは、因数分解そのもの」という筆者の考えが誰にでもわかるよう、具体的な例を示しながら、二〇〇字以内で説明しなさい。

問三 皆さんが中学・高校で勉強してきたことの意味について、本文の論旨をふまえ、あなたの考えを三〇〇字以内で述べなさい。ただし、論点を支える具体例をあげること。